

一〇六、市八、一八、一、九、町村六、九、八、九九條。

課税物件が數個ノ地方團體ノ區域ニ互リテ存スル場合ニ於テハ各地方團體ノ課税權ヲ公平ニ分配シ以テ重複課税ヲ避クルコトヲ要ス。(イ)物税ニ付テハ數箇所ニ營業所ヲ設ケ而シテ各營業所毎ニ本税ヲ分別スルコトナク其全體ノ所得ニ對シ所得税營業税釐産税等ノ本税ヲ納ムル者ニ對シ附加税ヲ課スル場合ニ於テハ關係地方團體理事者ノ協議ニ依リテ本税額ノ歩合ヲ定メ(但シ府縣ニ於テ既ニキハ市町村ニ於テハ其歩合ヲ以テ協議調ハザルトキハ監督廳ノ決定ニ依ル。釐産ガ數地方團體ノ區域ニ互リ其全體ニ付釐産税ヲ納ムル者ニ付テハ釐産ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本税額ノ歩合ヲ定ム(府縣町村税ノ賦課ニ關スル件)。(ロ)人税ニ關シテハ住所又ハ居所ガ數地方團體ノ區域ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ定地營業ヨリ生ズルモノニ非ザルモノニ課税スル場合ニハ其收入ヲ各地方團體ニ平分シテ賦課スベキモノトス(府縣町村税ノ賦課ニ關スル件)。
地方税ニ付テハ法律ニ依リテ課税除外ノ定アリ、地方團體ヲシテ之ニ課税スルコトヲ得ザラシム。法律ハ又課税除外ニ關スル規定ヲ勅令ニ委任シ、勅令ヲ以

テモ之ヲ定ムルコトヲ得ベカラシム(市制一、府縣一、町村一)。

地方税ハ其税率ニ關シテモ法律上ノ制限アリ。其制限ハ或ハ絶對ナルモノアリ、或ハ特別ノ理由アル場合ニ於テハ監督廳ノ許可ヲ得テ制限外課税ヲ爲シ得ベキコトヲ認ムルモノアリ。其制限ニ關スル規定ハ地方税制限法(四三七)ヲ重ナルモノトシ、其他各種ノ税法ニ於テ別ニ其率ヲ定ムルモノアリ。

(三) 租税ノ賦課 國税ガ直接ニ法律ヲ以テ定メラルルニ反シテ、地方税ニ付テハ法律ハ唯課税權ノ範圍ヲ限定スルニ止マリ、其範圍内ニ於テ之ヲ賦課スル行爲ハ常ニ地方團體ノ決定ニ依ル。地方團體ハ或ハ一般的ノ法則ヲ以テ之ヲ規定シ其規定ニ從ヒテ之ヲ課スルモノアリ、或ハ概括的ノ定ヲ爲サズ、毎年度地方議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ムルモノアリ。市町村ノ特別税ニ付テハ法律ハ特ニ條例ヲ以テ一般的ノ定ヲ爲スルコトヲ明言セリ(市一〇九條)。市町村ノ附加税及府縣税ニ付テハ其制限ナク、隨ツテ其何レノ方法ヲモ取ルコトヲ得ベシト雖モ、少クトモ其決議ハ之ヲ一般ニ公示スルコトヲ要スルハ當然ナリト認ムベシ。

地方税ノ賦課ハ其團體ニ於テ自ラ之ヲ定ムルヲ原則ト爲スト雖モ、唯府縣税ノ

賦課ニ付テハ府縣會ノ議決ニ依リ其細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ委任スルコトヲ得(府縣制一)。殊ニ府縣稅戶數割ニ付テハ所謂分配稅ノ方法ニ依リ先ヅ全府縣ニ於テ徵收スベキ戶數割總額ヲ定メ此總額ヲ一定ノ割合(豫算ノ屬スル年度ノ前々年度ニ於テ市町村ノ住民ノ法入ヲ除ク)ノ賦課ノ受ケタル直接稅及直(豫算ノ屬スル年度ノ前々年度ニ於テ市町村ノ住民ノ法入ヲ除ク)ヲ以テ各市町村ニ配當シ而シテ各市町村内ニ於ケル各個ノ納稅義務者ニ對シテハ市町村會ニ於テ課稅標準ヲ決定スルヲ例トス(府縣稅戶數割規則)。

地方團體ガ各納稅義務者ニ對シ租稅ノ給付ヲ命ズルニハ原則トシテ書面ヲ以テ之ヲ告知スルコトヲ要ス(此例外ハ唯私人ニ徵收ヲ委任)此書面ヲ徵稅令書ト謂フ。徵稅令書ハ府縣稅ニ在リテハ市町村ヲシテ之ヲ義務者ニ傳達セシムルヲ通常トス。府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シテ之ヲ義務者ニ交付ス。場合ニ依リ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏員ガ直接ニ徵稅令書ヲ義務者ニ發スルコトヲ妨グズ。市町村稅ニ在リテハ市町村長ガ義務者ニ徵稅令書ヲ發ス。

(四) 租稅ノ徵收 府縣稅ノ徵收ハ原則トシテ市町村ニ委任セラレ市町村ハ之

ヲ徵收シテ府縣金庫ニ納入スルノ義務ヲ負フ(三勅令八一府縣)。市町村稅ハ之ニ反シテ市町村ガ自ラ之ヲ徵收スルヲ原則トスルコト勿論ナリ。

例外ノ場合ニ於テハ地方稅ニ付テモ其徵收ヲ私人ニ委任スルコトガ許サレルモノアリ。府縣稅ニ在リテハ遊興稅、觀覽稅(府縣稅徵收令一〇三)市町村稅ニ在リテハ遊興稅、歡興稅、宴席消費稅、特別消費稅、觀覽稅、入湯稅、遊興稅附加稅、觀覽稅附加稅(市町村稅徵收令二)是ナリ。

地方團體ハ特別ノ事情アル場合ニ於テ其ノ徵收スベキ租稅ヲ減免シ又ハ納稅ノ延期ヲ許スノ權ヲ有ス(八府縣制一〇三、市一八條)。

(五) 租稅ノ擔保 地方稅ニ付テモ法律ハ一般ニ義務者ノ總財產ノ上ニ先取特權アルコトヲ認ム。先取特權ノ順位ニ付テハ國稅ハ府縣稅ニ先テ府縣稅ハ市町村稅ニ先ツテ原則トス(國稅徵收法二條、府縣制一一六條五項)。

(六) 財政強制 地方稅ニ關シテモ法律ハ二ノ點ニ於テ地方團體ノ財政上ノ強制權ヲ認ム。

(イ) 家宅又ハ營業所ニ臨檢シ及ビ帳簿物件ノ檢查ヲ爲スノ權。但シ晝間ニ限

リ、營業者ニ關シテハ仍其營業時間内ハ之ヲ爲スコトヲ得(府縣一六條、市一〇七條)。

(ロ) 不納ノ場合ニ於テ其督促ヲ爲シタル後滯納處分ヲ行フノ權。滯納處分ハ國稅滯納處分ノ例ニ依ル(府一六條、市一三條)。其執行ノ任ニ當ル者ハ府縣稅ニ在リテハ知事ノ命ヲ受ケタル官吏、市町村稅ニ在リテハ當該市町村吏員ナリ。

(七) 救濟手段、違法ノ課稅ニ對シテハ法律ハ一般ニ異議申立、訴願及行政訴訟ノ權利ヲ認メ、違法ノ滯納處分ニ對シテモ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得シム(府縣一、町村一一〇、市一一三〇)。

(八) 財政罰、地方稅ニ關スル遁脫其他ノ秩序違反ノ罪ニ對シテハ法律ハ別段ノ罰則ヲ定メズ。唯市町村ノ特別稅ニ關シテハ市町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルヲ得ベキモノト爲セリ(市一〇九條)。府縣稅ニ付テハ、使用料手數料ニ付テハ過料ノ罰則ヲ定メ得ベキモノト爲セルニ反シテ、罰則ヲ定ムルノ權ヲ認メズ。唯其不正ナル遁脫ガ刑法(二四六條)ノ定ムル詐欺罪ニ該當スル場合ニ於テ刑法ニ依リ處斷シ得ベキノミ。

第五章 軍政

軍政トハ國家ガ軍隊ヲ維持管理シ及ビ其目的ノ爲ニ人民ニ兵役其他ノ負擔ヲ課スル作用ヲ謂フ。軍政ノ作用ハ之ヲ二種ニ大別スルコトヲ得。一ハ軍隊ヲ維持管理スルノ作用ニシテ、一ハ軍隊ノ目的ノ爲人民ニ兵役其他ノ負擔ヲ課スルノ作用ナリ。前者ハ軍事ニ關スル管理的的作用ニシテ直接ニ人民ニ對シテ統治權ヲ行フモノニ非ズ、之ヲ軍編制權ト謂フコトヲ得(軍編制權ト統帥權トノ區別ニ付テハ憲法撮要五五二頁以下參照)。後者ハ軍備ニ關スル國家統治權ノ作用ニシテ、直接ニ人民ニ對シテ權力ヲ行使スルモノナリ、之ヲ狹義ニ於ケル軍政權ト謂フコトヲ得。

第一節 軍ノ編制

一 軍政ノ機關

天皇ノ下ニ軍政ヲ掌ル機關ハ陸軍ト海軍ト其系統ヲ異ニス。

(一) 陸軍。ニ在リテハ、陸軍大臣ヲ最高ノ官廳ト爲ス。陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス(陸軍省官制一條)。陸軍大臣ノ監督ノ下ニ地方ニ於ケル軍政ノ機關ハ師團司令部、旅團司令部、要塞司令部、朝鮮軍臺灣軍及關東軍司令部等之ニ任ズ。此等ハ本來軍令ノ機關タルコトヲ主タル職務ト爲スト雖モ、同時ニ部下諸部隊ノ軍紀風紀ヲ統監シ、陸軍ニ屬スル建築物ノ保護ニ任ズル等軍政ヲ掌ル機關タリ。軍政ニ關シテハ陸軍大臣ノ指揮監督ニ服ス。徵兵、召募、在郷軍人等ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲ニ各師團長ノ下ニ於テ各聯隊區ニ聯隊區司令部ヲ置ク(聯隊區司令部)。其他尙特殊ノ目的ノ爲ニハ中央及地方ニ特別ノ機關ヲ置クモノアリ。其主要ナルモノヲ舉グレバ、(イ)軍馬兵器及軍需品ノ供給ニ關シテハ陸軍大臣ノ下ニ軍馬補充部、陸軍被服廠、陸軍糧秣廠、陸軍衛生材料廠、陸軍兵器廠、陸軍造兵廠、千住製絨所ヲ置キ、各師團長ノ下ニ陸軍兵器部ヲ附屬セシム。(ロ)航空ニ關シテハ陸軍航空部、(ハ)防禦營造物ノ築造ノ爲ニハ築城部、(ニ)兵器及

兵器材料其他陸軍ノ技術ノ進歩、統一ノ爲ニハ陸軍技術本部、陸軍技術會議、陸軍科學研究所ノ設置アリ、(ホ)會計ノ經理ノ爲ニハ中央ニ陸軍東京經理部、各師團及殖民地軍ニ附屬シテ陸軍經理部ヲ置ク。(ハ)軍事衛生ノ爲ニハ各師團及各軍ニ陸軍軍醫部、陸軍獸醫部ヲ附屬セシメ、又各衛戍地ニ衛戍病院ヲ置ク。(ト)陸軍司法事務ニ關シテハ各師團及各軍ニ陸軍法務部ヲ置キ、(チ)軍紀ヲ保持スルガ爲ニハ陸軍大臣ノ下ニ憲兵隊ヲ設置シ、憲兵司令部ヲ東京ニ置ク。(リ)陸軍ニ屬スル人馬物件ノ輸送ニ關スル事務ニ付テハ陸軍大臣ノ下ニ陸軍運輸部ヲ置ク。

陸軍軍隊教育ノ事務ハ陸軍大臣ノ所管ノ外ニ置カレ、別ニ教育總監部ヲ置キ之ヲ統轄セシム。教育總監ハ天皇ニ直隸シテ陸軍砲工學校、陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍歩兵學校、陸軍戶山學校ヲ管轄ス。唯陸軍大學校ハ教育總監ニ隸セズシテ參謀總長ニ隸ス。教育總監部ニ本部ノ外騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、監部ヲ置キ當該兵科ノ團隊教育ニ付統一進歩ノ責ニ任ゼシム。工兵監ノ監督ノ下ニ陸軍工兵學校アリ。其他陸軍工科學校ハ技術本部長ニ、陸軍航空學校ハ、航空部本部長ニ、陸軍軍醫學校、陸軍獸醫學校、陸軍經理學校ハ陸軍大臣ニ隸ス。

(二) 海軍。ニ在リテハ海軍大臣ヲ軍政ノ最高官應ト爲ス。海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス(海軍省官制一條)。鎮守府司令長官要港部司令官艦隊司令官等軍令ノ機關ガ同時ニ麾下ノ諸部隊ニ關シ軍政ノ任ニ當リ而シテ此任務ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ承クルコトハ陸軍ニ於ケルト同ジ、特別ノ目的ノ爲ニ存スル機關トシテハ海軍大臣ノ下ニ海軍艦政本部海軍技術研究所海軍火藥廠海軍燃料廠等ヲ置キ各軍港其他ニ海軍港務部海軍經理部海軍軍需部海軍人事部海軍工廠海軍建築部海軍病院等ヲ置ク。海軍ノ教育ハ陸軍ニ於ケルト異ナリ等シク海軍大臣ノ管轄ニ屬シ海軍大學校海軍兵學校海軍機關學校海軍軍醫學校海軍經理學校等何レモ海軍大臣ノ監督ヲ承ク。唯海軍砲術學校海軍水雷學校海軍潜水學校等鎮守府司令長官ニ隸スルモノアリ。

二 常備軍ノ組織

陸海軍ノ編制ヲ定ムルハ天皇ノ大權ニ屬シ(憲法一條)、議會ノ議決ヲ經ルコトヲ要セズ、唯其實施ニ費用ヲ要スル限度ニ於テ豫算議定權ノ制限ヲ受クルノミ。常備軍ノ組織ハ時々變動アリト難モ、大正十二年ニ於ケル現在ノ制度ヲ約言ス

レバ凡ソ左ノ如シ。

陸軍ハ近衛師團及ビ第一以下第二十ニ至ル二十箇師團ヲ以テ組織シ、内地ニハ近衛師團ノ外十八箇師團、朝鮮ニハ二箇師團ヲ配置ス。臺灣及ビ滿洲ニ在ル常備團隊ハ其以外ニ在リ。各師團ハ步兵隊、騎兵隊、砲兵隊、工兵隊、輜重兵隊ヨリ成リ、別ニ鐵道隊、電信隊、飛行隊、氣球隊、自動車隊ヲ附屬スルモノアリ。步兵ハ各師團ヲ二箇旅團トシ一旅團ハ二箇聯隊ヨリ成ル。騎兵隊以下ノ諸隊ハ各師團一様ナラズ(大正一軍令陸五陸)。要塞ニハ別ニ要塞司令部ヲ置ク(要塞司令部)。

海軍ハ從來帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ五海軍區ト爲セシガ、華盛頓條約ノ結果ニ因リ大正十二年四月一日ヨリ、之ヲ改メテ三海軍區ト爲セリ。各海軍區ニ一軍港ヲ置ク、第一區ハ橫須賀、第二區ハ吳、第三區ハ佐世保、南洋海軍區ハ橫須賀鎮守府ヲ置キ各其海軍區ヲ管セシム。關東州海軍區ハ佐世保、南洋海軍區ハ橫須賀鎮守府ノ所管ニ屬ス(大正一勅令五五六海軍區令三三九勅令二五六關)。鎮守府ハ出師ノ準備、防禦ノ計畫、海軍區ノ警備ヲ掌リ及所屬諸部ヲ監督ス(鎮守府條例)。特ニ警備ヲ要スル海岸ニハ別ニ要港(舞鶴、馬公、大湊、鎮海)ヲ定メ各要港ニ要港部ヲ置キ所管警備區ノ防禦及警

備ヲ掌ラシム(要港部令)。要港部ノ所掌ニ屬スル警備區ノ警備ハ鎮守府所掌ノ外ニ在
リ。各軍港、要港及旅順ニ防備隊ヲ置キ、鎮守府又ハ要港部ニ隸シ、海面ノ防禦ニ當
ラシメ(防備隊令、旅順防備隊令)又各軍港ニ海兵團ヲ置キ、軍港ノ警備及陸上ノ防火ヲ掌ラシム
(海兵令)。

海軍ノ艦船ハ軍艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇、水雷艇、特務艦(工作艦、運送艦、碎水艦)、特務
艇(敷設艇、掃海艇、特務艇)、雜役船ニ種別ス。又現ニ役務ニ服スルト否トニ依リ、在役艦船
豫備艦船ノ別アリ。在役艦船ハ艦隊其他ニ編入若ハ附屬シ又ハ警備、練習、測量等
ノ役務ニ服ス。艦船ノ本籍ハ常ニ鎮守府ニ置ク。軍艦二隻以上ヲ以テ艦隊ヲ編
成シ必要ニ應ジ之ニ驅逐隊、潜水隊、艇隊又ハ驅逐艦、潜水艦、水雷艇ヲ編入シ、港務部、
防備隊、航空隊、特務船等ヲ附屬ス。艦隊ハ必要ニ應ジ之ヲ戰隊ニ區分シ、又二個以
上ノ艦隊ヲ以テ聯合艦隊ヲ編成ス(艦隊令)。通信、聯絡ヲ保ツガ爲ニハ沿岸要所其
他必要ナル場所ニ海軍望樓、海軍無線電信所、海軍軍用通信所ヲ設置ス。

三 陸海軍軍人ノ補充及服役

(一) 補充。陸海軍軍人ハ陸軍軍將校、同相當官、准士官、下士及兵卒ヲ包含ス。兵

卒ノ補充ハ毎年ノ徵兵及志願兵ノ徵募ニ依ルモノニシテ、是ニ付テハ次節ニ述ブ
ベク、陸海軍武官ノ補充ニ付テハ陸軍ニハ陸軍補充令(四七〇勅令)、海軍ニハ海軍武官
任用令(大正七勅令三七七)、海軍豫備員令(大正八勅令二六七)等ノ定アリ。

陸軍補充令ニ依レバ、現役士官ハ士官候補生、現役特務曹長、又ハ現役砲工兵上等
工長ニシテ少尉ニ任ゼラルルノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ヲ補充スルヲ原則トシ、
技術將校タルベキ各兵科士官、經理部士官、衛生部士官、獸醫部士官ニ付テハ各特別
ノ規定アリ。豫備役將校及同相當官ハ一年志願兵終末試験ニ及第シ豫備役ニ入
リタル者又ハ一年現役兵終末試験ニ及第シ國民兵役ニ入りタル者ニシテ四ヶ月
ノ勤務演習ニ服シ其終ニ於テ期末試験ニ及第シタル者ヨリ詮衡ヲ經テ之ヲ補充
ス。現役下士及豫備役後備役下士ノ補充ニ付テモ各其特別ノ規定アリ。

海軍武官ノ補充ハ海軍任用令ニ依ルヲ原則トス。或ハ一定ノ資格アル者ヨリ
先ヅ候補生ニ任ジ、而シテ候補生ヨリ士官ニ任ジ、或ハ一定ノ學歷アル者ヨリ直接
ニ少尉又ハ中尉ニ任ズ。特務士官及下士官ノ任用ニ付テハ各其規定ニ依ル。海
軍豫備員令ニハ海軍豫備士官豫備下士官ニ付別ニ其任用規定ヲ設ク。

(二) 進級。陸軍武官ノ進級ニ付テハ陸軍武官進級令(大正五勅令一九九九)及海軍武官進級令(大正五勅令五八)ノ定アリ。武官ノ進級ハ級ヲ逐ヒ其官階ヲ歴進セシム。各級ニ實役停年ノ定アリ、停年ヲ超エタル者ニ非ザレバ進級セシムルヲ得ザルヲ原則トス。唯戰時其他特殊ノ場合ニハ必ズシモ此例ニ依ラザルコトアリ。

(三) 服役及分限。陸軍將校、同相當官及准士官ノ服役ハ現役、豫備役及後備役トス。各官ニハ其官ニ應ジ現役定限年齢ノ定アリ。現役將校等其年齢ニ達スルトキハ後備役ニ入ル。未ダ其年齢ニ達セザル者ト雖、待命、休職又ハ停職ト爲リ一定ノ期間ヲ經テ復職ノ命ヲキトキ又ハ宮内官若クハ陸軍部外ノ文官(武官ヲ以テ充テハ朝鮮總督、臺灣總督、關東長官ヲ除ク)ニ專任セラレ又ハ貴族院議員ニ勅任セラレタルトキハ豫備役ニ入ル。其他本人ノ願ニ依リ又ハ上諭ニ依リ若ハ陸軍大臣旨ヲ諭シテ豫備役ニ入ラシムルコトヲ得。豫備役及後備役ニモ服役年限ノ定アリ。豫備役滿期ト爲ルトキハ後備役ニ入り、後備役滿期ト爲ルトキハ退役トス。但シ將校、同相當官及准士官ハ何レモ終身官ニシテ、本人ノ辭職ニ依リ若クハ懲戒ニ依リ免官ト爲リ又ハ刑罰ノ結果當然失官ト爲ルノ外ハ退役者ト雖モ終身其官ヲ保有ス(四四勅令二八五)陸軍軍

八服役令大正三勅令六七陸軍將校分限令。

陸軍下士ハ將校ト異ナリ終身官ニ非ズ、後備役滿期ト爲リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシメ、而シテ第一國民兵役ニ入りタル者ハ同時ニ其官ヲ失フ。其ノ現役、豫備役、後備役ノ服役期間ニハ各一定ノ年限ノ定アリ(陸軍軍人)。

海軍ニ關シテハ海軍士官特務士官准士官服役令(大正三勅令三〇七)海軍下士官兵服役令(四三勅令二五〇)及ビ海軍將校分限令(二四勅令七九)ノ定アリ。大體ニ於テ陸軍ト其主義ヲ同ジウス。

四 軍人ノ職務上ノ義務

陸海軍軍人ガ其軍人タル地位ニ於テ國家ニ對シテ負フ所ノ義務ハ一般官吏ノ國家ニ對スル義務ト性質ヲ異ニスルコトナシ。唯軍人ハ其紀律特ニ嚴重ナルコトヲ要シ、隨ツテ其ノ拘束ヲ受クルノ程度ハ文官ニ比シ遙ニ強シ。

(一) 軍人ノ職務上ノ義務ノ一般官吏ト異ナル最モ主要ナル點ハ其ノ從順ノ義務ニ在リ。軍隊ノ戰鬥力ヲ發揮シ軍備ノ目的ヲ全ウスル爲ニハ、軍令ノ統一ヲ保チ、上長ノ命令ヲシテ絶對ノ效力ヲ有セシメ、軍隊ヲシテ恰モ一箇體ノ如クニ心ヲ

一ニシテ活動セシメザルベカラズ。此故ニ明治十五年ノ軍人ヘノ勅諭ノ中ニハ『下級ノ者ハ上官ノ命ヲ承ルコト實ハ直ニ朕ガ命ヲ承ル義ナリト心得ヨ』ト宣タマヒ、陸軍軍人讀法ニモ『長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハズ直ニ之ニ服從シ抗抵干犯ノ所爲アルベカラザル事』ノ箇條アリ。上官ノ命令ニ抵抗スルハ一般文官ニ在リテハ唯懲戒處分ノ原因タルニ止マルニ反シテ軍人ニ在リテハ嚴重ナル刑罰ヲ以テ之ガ制裁ト爲ス(陸軍刑法抗命ノ罪五七條乃至五九條、海軍刑法抗命ノ罪五五條乃至五七條)。

軍人ガ上官ノ命令ニ服從スルコトヲ要スルハ唯其命令ノ有效ナル場合ニ限ルコトハ勿論ナリト雖モ、軍令ノ效力ハ二ノ點ニ於テ一般文官ニ對スル職務命令ト區別シテ觀察スルコトヲ要ス。(イ)軍人ハ其一身上ノ生活行動ニ付テモ軍ノ紀律ニ關係スルモノ多ク、職務ニ關係ナキ私生活ノ範圍トシテ認ムベキモノ甚狹シ。隨ツテ軍人ニ對スル命令ハ一見私生活ニ屬スト認ムベキモノニ付テモ多クノ場合ニ於テ尙有效ノ命令タルコトヲ失ハズ。殊ニ入營中及ビ戰時ニ於テ陣中ニ在ル軍人ハ其總テノ生活行動ニ付キ上官ノ命令ニ服ス。(ロ)絕對ニ無効ナル命令ニ對シテハ軍人ハ固ヨリ服從ノ義務ヲ負ハズト雖モ、軍人ヲシテ自ラ命令ノ有效無

効ヲ審査スルノ責任ヲ負ハシメ、若シ無効ナル命令ニ服從スルトキハ服從者ニ於テ自ラ責ニ任ズルヲ要ストスルトキハ、軍人ヲシテ其服從ニ危懼ヲ感ゼシメ、延イテ軍紀ノ統一ヲ害スルヲ以テ、上官ノ命令ニ基イテ爲シタル行爲ニ付テハ假令其命令ノ無効ナル場合ト雖モ、自ラ責ニ任ズルコトナク其命令者タル上官ニ於テ專ラ其責ニ任ズベキモノト解セザルベカラズ。是レ法律ガ刑罰ノ制裁ヲ以テ服從ヲ強制セルコトヨリ生ズル當然ノ條理ナリ。

(二) 軍人ニ對リテハ特ニ敬禮ヲ以テ法律上ノ義務ト爲ス。軍人勅諭ノ中ニ『己ガ隸屬スル所ニアラズトモ上級ノ者ハ勿論停年ノ己ヨリ舊キモノニ對シテハ總テ敬禮ヲ盡スベシ』トアリ。軍人ノ敬禮ニ付テハ陸軍ニハ陸軍禮式(四三軍令陸五)海軍ニハ海軍禮式令(大正三勅令一五)海軍禮砲令(大正三勅令一二)ノ定アリ。

(三) 陸軍軍人ハ其就役ニ際シ軍人讀法ヲ受ケ宣誓ヲ爲スノ義務アリ。

五 軍人ノ法律上ノ特殊地位

軍人ハ職務上ノ義務ニ服スル外其ノ身分ニ關シテモ種々ノ點ニ於テ一般人民ト異ナル特殊ノ地位ヲ有ス。

(一) 民法上ニ於テハ、軍人軍屬ノ遺言ニ關シテ特別法(法律一三軍人軍屬ノ遺言確認ニ關スル件)ノ定アリ。現役軍人ノ婚姻ニ付テハ親任官及同待遇者ハ勅許ヲ要シ、其他ノ軍人ハ陸軍大臣、所屬長官、又ハ所屬部隊長ノ許可ヲ要ス(大正一〇、勅令四八一陸軍現役軍令四八三海軍現役士官現役特務士官候補生及現役准士官ノ婚姻ニ關スル件)。但シ此許可ハ婚姻ノ效力發生ノ要件ニ非ズ、唯許可ヲ受ケズシテ婚姻ヲ爲スベカラザル公法上ノ義務ヲ負フノミ。

(二) 刑法上ニ於テハ軍人ハ普通刑法ノ適用ヲ受クルノ外特ニ軍事ニ關スル犯罪ニ付陸軍刑法及海軍刑法ノ定アリ、現ニ軍務ニ服スル軍人ニ適用セラル。刑ノ執行ニ關シテモ死刑ノ執行ハ一般人ニ對スルト異ナリ陸軍又ハ海軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ陸海軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス。

(三) 裁判管轄ニ關シテハ軍人ハ刑事裁判ニ付テノミ特別ノ管轄ニ服ス。現ニ軍務ニ服スル陸海軍人ノ犯罪ハ普通ノ刑事裁判所ノ管轄ニ屬セズ、陸軍軍法會議及海軍軍法會議ヲ置イテ之ヲ管轄セシム。

(四) 憲法及行政法上ノ地位ニ於テハ現役軍人ハ衆議院ノ選舉權ヲ行フコトヲ得ズ、又被選資格ヲ有セズ。陪審員ノ職ニ就カシムルヲ得ズ。市町村ノ公民權ヲ

行フコトヲ得ズ、隨ツテ府縣會市町村會等地方團體ノ選舉ニ參加シ又ハ被選人タルコトヲ得ズ。政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ズ。

軍人ノ戰功ヲ賞スル爲ニハ特ニ金鷄勳章ノ制アリ。戰鬪又ハ公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リタル軍人ニ授與スル爲ニハ軍人傷疾記章ノ制ヲ設ク。其他從軍記章戰捷記章等ノ制アリ。

(五) 軍人ノ給與ニ關シテハ現ニ軍務ニ服スル者ニ付テハ陸軍給與令(三二二勅令)陸軍戰時給與規則(二七勅令)海軍給與令(三七勅令)海軍戰時給與規則(二七勅令)等ノ定アリ。現役ヲ離レタル軍人又ハ其遺族ノ生活ヲ保障スル爲ニハ軍人恩給法(二四三法)ニ依リ終身年金又ハ一時金ヲ給ス。軍事救護法(法律一六)ニ依レバ傷病兵其家族若クハ遺族又ハ下士兵卒ノ家族若クハ遺族ニシテ生活スルコト能ハザル者ハ其生活ニ必要ナル限度ニ於テ救護ヲ受クルノ權利ヲ有ス。別ニ廢病院(三九九法律二)ノ制アリ、戰鬪ノ爲傷疾ヲ受ケ軍人恩給ニ依リ增加恩給ヲ受クル者ニシテ救護ヲ要スルモノハ之ヲ廢病院ニ收容シ國費ヲ以テ終身之ヲ扶養ス。公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ軍人恩給法ニ依リ增加恩給ヲ受クル者ニシテ救護ヲ要スルモ

ノモ亦特ニ之ヲ癡兵院ニ收容スルコトヲ得。

六 軍事司法及軍事懲罰

(一) 軍事刑法 軍事ニ關スル犯罪ヲ處罰スル爲ニ陸軍刑法(四一法)軍機保護法(三一法)海軍刑法(四一法)ノ定アリ。此等ノ法律ハ普通刑法ニ對シ特別法ノ性質ヲ有スルモノニシテ、此等ノ法律ニ規定セラルル事項ニ付テハ其法律ヲ適用シ普通刑法ノ適用ナク、其規定ナキ事項ニ付テノミ普通刑法ヲ適用ス。普通刑法ノ總則ノ規定ハ例外ノ定ナキ限リハ此等ノ特別刑法ノ罪ニモ等シク適用セラル。刑罰ニ關シテモ普通刑法ト特別刑法トニ依リ刑名ヲ異ニスルコトナシ。軍事特別刑法ノ適用ヲ受クル者ハ必ズシモ軍人ニノミ限ラズ、軍機保護法ガ一般人民ニ適用セラルルハ勿論、陸軍刑法及海軍刑法モ亦其或ル條項ハ軍人ニ非ザル一般人民ニ適用セラルト雖モ、其主要ノ目的トスル所ハ現ニ軍務ニ服スル陸海軍軍人ノ軍紀ヲ紊ル者ヲ處罰スルニ在リ、軍ノ紀律ガ特ニ軍人ニ付此嚴重ナル制裁ヲ要求スルナリ。

(二) 軍法會議 軍人ノ犯罪ハ通常裁判所ノ管轄ニ屬セズ、軍法會議ニ於テ其裁

判權ヲ有ス。軍人ニ付キ此特別裁判制ヲ設クルハ軍隊ノ特殊ノ性質ト軍紀ノ嚴格ヲ保ツノ必要アルニ基クモノナリ。

軍法會議ノ權限ハ主トシテ犯罪者ノ身分ニ依リテ定マリ、例外トシテ其身分ヲ有セザル者ノ犯罪ニ付テモ裁判權ヲ有スルモノアリ。陸軍軍法會議法(大正一〇)ニ依レバ陸軍軍法會議ノ裁判權ニ屬スルモノ左ノ如シ。

(イ) 身分ニ基キ軍法會議ノ裁判ニ服スル者ハ(1)陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未ダ入營セザル者及歸休兵ヲ除ク、(2)召集中ノ在郷軍人、(3)召集ニ依ラズ部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人、(4)前二號ノ外現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人、(5)志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者、(6)陸軍所屬ノ學生、生徒、(7)陸軍軍屬、(8)陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人、(9)陸軍用船ノ船員、(10)以上ノ外尙陸軍ノ部隊ニ屬シ又ハ從フ者、(11)俘虜ナリ。此等ノ者ハ其身分發生前ノ犯罪ニ付テモ軍法會議ノ裁判ニ服ス。此等ノ何レニモ屬セザル在郷軍人ガ陸軍ノ制服著用中ニ犯シタル罪ハ陸軍刑法ノ罪ニ限り軍法會議ニ於テ裁判權ヲ有ス。

(ロ) 身分ニ拘ラズシテ軍法會議ガ裁判權ヲ有スルハ戒嚴ノ宣告其他戰時事變

ニ際シ特殊ノ必要アル場合ニシテ(1)合圍地境ニ在リテ軍人ト共ニ犯シタル同一又ハ別個ノ罪(2)合圍地境ニ於ケル陸軍刑法、海軍刑法、軍機保護法其他軍事ノ必要ニ因リ特ニ設ケタル法令ノ罪(3)合圍地境ニ於ケル普通刑法ノ罪ニシテ戒嚴令(一)ニ依リ軍法會議ノ權限ニ屬セシメタルモノ(4)合圍地境內ニ於ケル軍事ニ係ル民事事件(5)合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶シタル場合ニ於テハ其地境內ニ於ケル一切ノ民事刑事事件(6)戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要アル場合ニ於ケル刑事事件是ナリ。

海軍軍法會議ノ權限モ亦略之ニ準ズ(大正一〇法律九一)。

軍法會議ハ之ヲ常設ノモノト必要ニ因リ特設スルモノトニ分ツコトヲ得。(イ)

常設軍法會議ハ陸軍ニ在リテハ高等軍法會議及ビ師團軍法會議(朝鮮軍軍法會議)

關東軍軍法會議ノ二級トシ、海軍ニ在リテハ高等軍法會議及ビ東京軍法會議、鎮守府

軍法會議、要港部軍法會議ノ二級トス。(ロ)必要ニ因リ特設スルモノハ陸軍ニ在リ

テハ軍軍法會議、獨立師團軍法會議、獨立混成旅團軍法會議、兵站軍法會議、合圍地軍

法會議、臨時軍法會議ノ六種トシ、海軍ニ在リテハ艦隊軍法會議、合圍地軍法會議、臨

時軍法會議ノ三種トス。

軍法會議ノ構成ガ他ノ裁判所ト異ナル最モ著シキ特色ハ、軍法會議ノ長官ト裁判機關トガ相分離セラルルコト及ビ裁判機關ノ大部分ガ陸軍將校ヨリ成ルコトニ在リ。長官ハ高等軍法會議及東京軍法會議ニ在リテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣トシ、其他ニ在リテハ總テ其部隊又ハ地域ノ司令官トス。軍法會議ノ長官ハ其裁判官ヲ定メ、除斥其他ノ事由アル場合ニ於テ裁判官ヲ變更シ、豫審官及檢察官ヲ命ジ、並ニ公訴及捜査ヲ指揮スルノ權ヲ有スト雖モ、自ラ裁判ニ關與スルコトナシ。換言スレバ長官ハ自ラ軍事司法權ヲ行フノ機關ニ非ズシテ司法機關ヲ統轄スル機關ナリ。其ノ陸海軍大臣又ハ司令官ヲ以テ任ズルハ軍法會議ガ軍隊ノ機關ニシテ長官ハ軍ノ大元帥トシテノ天皇ヲ代表スル者ナルコトヲ示スモノナリ。軍法會議ノ裁判官ハ判士及法務官ヲ以テ組織シ、判士ハ陸海軍將校(被告入ト同等以上)ヲ以テ之ニ充ツ。法務官ハ判事ト同様ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ任ズル專任ノ司法官ニシテ、終身官タル身分ヲ有スルコトハ判事ニ同ジク、唯其任用及懲戒ニ關スル規定ハ法律ニ依ラズ、勅令ヲ以テ定メラル。軍法會議ノ裁判ハ五人ノ合議裁判

(特設軍法會議ハ三トシ、高等軍法會議ハ判士三人、法務官二人ヲ以テ、其他ハ判士四人ト爲スコトナリ得)トシ、高等軍法會議ハ判士三人、法務官二人ヲ以テ、其他ハ判士四人法務官一人ヲ以テ裁判官トス。

(三) 軍法會議ノ訴訟手續。ハ舊陸軍治罪法海軍治罪法ノ規定ニ反シテ、新法ニ於テハ著シク普通ノ刑事訴訟手續ニ近似スルニ至レリ。裁判公開主義、口頭辯論主義、檢證等ニ關スル原則亦大體ニ於テ普通ノ刑事訴訟ニ同ジ。唯特設軍法會議ニ於テハ被告人ニ辯護人ヲ附スルコトヲ得ズ、又其判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ズ。常設ノ軍法會議ニ在リテハ下級審ノ判決ニ對シテ高等軍法會議ニ上告スルコトヲ許ス、但シ事實ノ認定ニ付控訴ヲ爲スコトヲ許サズ。

(四) 懲罰。軍人ニ對スル懲戒處分ハ一般官吏ノ例ニ依ラズ、陸軍懲罰令(四四軍令陸四)海軍懲罰令(四三九令)ニ依リ別ニ之ヲ定メ、陸海軍將校ノ免官ニ付テハ陸軍將校分限令及海軍將校分限令ニ依リ之ヲ定ム。軍人ノ懲罰ガ官吏ノ懲戒ト異ナル最モ著シキ特色ハ(イ)罰ノ種類ガ單ニ其軍人タル地位ニ基ク權利又ハ利益ヲ剝奪スルニ止ラズシテ、其自由ヲ拘束スルノ罰ヲ含ミ、陸軍將校下士ニハ重謹慎輕謹慎、陸軍兵卒ニハ重營倉輕營倉、海軍將校ニハ謹慎、海軍下士官兵ニハ拘禁、禁足ヲ科シ得ベ

キコト (ロ)懲罰ノ手續ニ於テ特別ノ委員會ノ審査ヲ經ルコトナク、所屬上長官ノ專斷ニ依リ、將校ノ免官ハ勅裁ニ依ルコトニ在リ。本來ノ性質ヨリ言ヘバ、自由ヲ拘束スベキ處罰ヲ科スルハ勿論、其他ノ罰ニ付テモ兵卒ハ自己ノ自由意思ニ基カズシテ其地位ニ在ル者ナルヲ以テ之ヲ處罰スルハ常ニ法律ノ規定ニ依ルヲ要スルモノナリト雖モ、唯軍人ハ憲法第三十二條ニ依リ一般臣民ト同様ナル自由權ノ保障ヲ受ケザルヲ以テ此等ノ處罰モ亦勅令又ハ軍令ヲ以テ定メラレタリ。

第二節 兵役

一 兵役義務ノ性質

日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス(憲法二)。我ガ國ニ於テ全國民ニ對シ強制徵兵制度ヲ採ルニ至リシハ明治五年ニ始マル。其ノ現行ノ規定ハ徵兵令(二二法)徵兵事務條例(大正八勅)徵兵檢査規則(大正五九)一年志願兵條例(大正七五)一年現役兵條例(大正七六)海軍志願兵條例(三七勅)ヲ重ナルモノトス。強制徵

兵制度ハ以テ募集志願兵制度ニ對スルモノニシテ、後者ガ兵役ヲ以テ自由契約ニ一任スルニ反シテ前者ハ國家ノ權力ニ依リ強制的ニ其義務ヲ負ハシムルモノナリ。然レドモ強制徵兵制度ハ決シテ自由契約ニ依ル兵役ヲ全然排除スルモノニ非ズ。強制的ノ兵役義務ハ其性質上必然ニ一定ノ年數ヲ限ラルベク、軍人タルコトヲ以テ終身ノ職業ト爲サシムルモノナルコトヲ得ズ。而シテ軍備ノ目的ヲ達スルガ爲ニハ必ず職業的ノ軍人ヲ要シ、強制的ノ兵役義務ノミヲ以テハ其目的ヲ全ウスルコトヲ得ズ。故ニ強制徵兵制ニ依ル者ノ外必ず自由意思ニ依ル軍人アルコトヲ要シ、殊ニ將校下士官ノ服役ハ總テ其ノ任意ノ志望ニ依ル。

法律上ノ兵役義務ハ其レ自身ニ於テハ特定ノ軍事上ノ勞務ニ服スルコトヲ内容トスル義務ニ非ズ。現實ノ服役義務ハ特別ノ國家ノ行爲ニ依リ始メテ設定セラル。一般兵役義務ハ唯國家ヨリ軍役ニ服スルコトヲ命ゼラレ得ベキ状態ニ外ナラズ、其義務ノ内容ハ服役ノ命アル場合ニ於テ其命ニ服從スベキコトニ在リ。故ニ兵役義務ニ服スル者ノ總テガ軍人タルニ非ズ、唯或ル條件ノ下ニ其自由意思ニ基カズシテ軍人ト爲ルベキ地位ニ在ルノミ。隨ツテ又兵役義務ノ免除トハ單

特權階級

ニ徵兵検査又ハ抽籤等ノ結果ニ依リ服役ヲ免除セララルコトヲ意味スルニ非ズシテ、全然國家ヨリ服役ヲ命ゼラルルコトナキ状態ニ置カルルヲ謂フ。

兵役義務ニ服スル者ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳ニ至ル迄ノ日本臣民タル總テノ男子ナリ。男子此年齢ニ達スルトキハ何等ノ法律上ノ行爲ヲ要セズシテ當然ニ兵役義務ニ服ス。唯皇族ハ原則トシテ一般國法ノ適用ヲ受ケザルヲ以テ徵兵令モ亦皇族ニ其適用ナク、隨ツテ皇族男子ハ兵役義務ニ服セズ。兵役ニ服スルコトハ日本臣民ノ義務タルト共ニ其權利ニシテ、此權利ハ唯國ノ公民ノミ之ヲ有スルヲ得ベク、六年以上ノ懲役禁錮又ハ其以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ニ依リ公權剝奪ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ得ズ。兵役能力ハ又内地人ニノミ屬シ、外國人ニ適用セラレザルハ勿論、朝鮮人、臺灣島人、樺太土人モ亦其適用ヲ受クルコトナシ。

兵役義務ハ唯内地人ノミ之ヲ負フモノナルヲ以テ、臣民ガ外國ニ歸化シ又ハ其他ノ理由ニ依リ日本ノ國籍ヲ失ヒ又ハ朝鮮人、臺灣島人、樺太土人ノ家ニ入りタルトキハ兵役義務ハ當然消滅スルコト言フ俟タズ。唯兵役義務ヲ免ルルガ爲ニ此

等ノ手段ヲ用キルコトハ固ヨリ許スベカラザル所ナルヲ以テ法律ハ滿十七歲以上ノ男子ハ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シ又ハ現役ニ服スル義務ナキ者ノ外日本ノ國籍ヲ失フヲ得ザルモノト爲シ(二國籍法)又陸海軍ノ兵籍ニ在ラザル者及兵役ニ服スル義務ナキニ至リタル者及ビ徵兵終決處分ヲ經テ第二國民兵役ニ在ル者ノ外内地ノ家ヲ去ルコトヲ得ザルモノト爲セリ(共通法三)。

兵役義務ヲ分チテ常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民兵役トシ、常備兵役ハ分チテ現役及豫備役トス。其各種ノ義務ノ内容ハ後ニ之ヲ述ブベシ。

二 徵兵ノ裁決

兵役義務ハ滿十七歲ニ始マルト雖モ軍隊ニ屬シテ軍事上ノ役務ニ服スルハ本人ノ志願ニ依ルノ外滿二十歲ニ達シタル後ナルコトヲ原則トス。前年ノ十二月一日ヨリ其年ノ十一月三十日迄ニ滿二十歲ニ達スル者ヲ徵兵適齡者トス。徵兵適齡者ハ既ニ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ヲ除クノ外其年一月中ニ其戶主ヨリ本籍ノ市町村長ニ適齡届ヲ爲スベキ義務ヲ負ヒ、又徵兵官ノ召喚ニ應ジテ其指定ノ期日ニ身體検査場ニ出頭シ身體検査ヲ受クベキ義務ヲ負フ。但シ滿二十

歲ニ至ラザル前ヨリ外國(露國、滿洲、支那、香港、澳門、領事管轄)ニ在ル者ハ本人ノ願ニ依リ滿三十七歲迄徵集ヲ延期シ、身體検査ヲ行ハズ。

徵兵適齡者及ビ其他總テ服役義務ヲ科セラルベキ地位ニ在ル兵役義務者ヲ壯丁ト謂フ。壯丁ガ何レノ種類ノ服役義務ヲ科セラルルカハ徵兵裁決ニ依リテ定マル。徵兵裁決ハ之ヲ假決及終決ニ分ツ。假決ハ終局ノ判定ヲ他日ニ延期スル行爲ニシテ、終決ハ終局ノ決定ヲ爲ス行爲ナリ。

假決ニ依リ決定セラルルモノハ徵集延期ナリ。徵集延期ハ一時ノ故障ニ因リ現役ニ服スルニ適セザル者ニ對シ其徵集ヲ後日ニ延期スルモノニシテ、(一)身體ノ故障(一)體格完全且強壯ナルモ身幹未ダ定尺ニ滿タザル者(二)刑事事件ノ故障(禁錮刑ニ該ル者、死刑ノ執行停止中ノ者、又ハ假出獄中ノ者)(三)貧窮(召集ニ應ズルキニ該ル者、刑ノ執行停止中ノ者、又ハ假出獄中ノ者)(四)外國在留(滿二十歲ニ至ラザル前ヨリ露國、滿洲、支那、香港、澳門以外ノ外國ニ在ル者)ノ四ノ原因ニ依リ與ヘラル。徵集延期ハ(一)及(二)ニ付テハ職權ニ依リ(三)及(四)ニ付テハ本人ノ願ニ依リ聯隊區徵兵官之ヲ決ス。終決ハ左ノ五種ニ分タル。

(一) 現役兵編入 現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ陸軍又ハ海軍ノ各兵種ヲ區別シ、先ヅ抽籤ニ依ラズシテ徵集スベキ者及ビ志願ニ依リ現役ニ服スル者ヲ取り、其他ノ一般壯丁ニ付テハ抽籤ノ法ニ依リ徵集順序ヲ定メテ之ヲ充ツ。毎年徵集スル現役兵ノ員數ハ勅裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦シ、師團長ハ師管ニ配賦セラレタル員數ヲ各聯隊區ニ、聯隊區司令官ハ聯隊區ニ配賦セラレタル員數ヲ各徵募區ニ配賦ス。

(二) 補充兵編入 身體検査ニ依リ甲種又ハ乙種ニ合格シタル者ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ヨリ抽籤ニ依リ所要ノ人員ヲ充ツ。其選定ノ方法ハ現役兵ニ準ズ。

(三) 要員超過 身體検査ニ依リ甲種又ハ乙種ニ合格シタル者ニシテ、抽籤番號ノ順序ニ由リ其年所要ノ補充兵員ニ超過スル者ハ之ヲ要員超過トシ國民兵役ニ服セシム。

(四) 徵集免除 身體検査ノ結果丙種合格ノ者ハ現役ノ徵集ヲ免除シ國民兵役ニ服セシム。

(五) 兵役免除 癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘザル者ハ兵役ヲ免除ス。

終決處分ヲ爲スノ權ハ徵集免除及兵役免除ハ聯隊區徵兵官ニ、其他ノ處分ハ聯隊區司令官ニ屬スルヲ原則トス。終決處分ハ特別ノ理由アル場合ニ於テハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ爲スコトヲ得。

徵兵事務ヲ執行スル爲ニ全國ヲ師管ニ、各師管ヲ聯隊區ニ、聯隊區ヲ更ニ徵募區ニ區劃ス。徵募區ハ郡又ハ市ノ區域ニ從フ。徵兵事務ノ機關ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官ヲ重ナルモノトス。總理徵兵官ハ陸軍大臣及內務大臣ヲ以テ之ニ充テ、全國ノ徵兵事務ヲ統轄ス。師管徵兵官ハ師管内道府縣毎ニ師團長及地方長官ヲ以テ之ニ充テ、其區域内ノ徵兵事務ヲ統轄ス。聯隊區徵兵官ハ聯隊區内ノ徵募區毎ニ聯隊區司令官及郡市長ヲ以テ之ニ充テ、徵募事務ヲ執行ス。東京、京都、大阪、名古屋ノ四市ニ於テハ徵募區ヲ検査區ニ分チ、市ノ各區ヲ検査區トシ、検査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ聯隊區徵兵官トス、而シテ徵募區毎ニ聯隊區聯合徵兵官ヲ設ケ、聯隊區司令官、市長及區長ヲ以テ之ニ充テ、抽籤事務ヲ執行ス。別ニ

毎年徵募事務執行中徵兵醫官ヲ置キ、身體檢查ニ關スル事務ヲ掌ラシム。
各種ノ兵員ノ徵集ハ、歩兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其師管ノ一聯隊區ヨリ、其他ノ陸軍ノ兵員ハ其師管ヨリ之ヲ徵集スルヲ原則トス。海軍ノ兵員ハ師管ヲ通シテ之ヲ徵集ス。

三 現役義務

現役トハ現ニ軍隊ニ屬シ、特ニ歸休ヲ命ゼラレタル者ノ外軍事上ノ勤務ニ服スル義務ヲ謂フ。現役ニ服スル義務ハ、或ハ強制的ニ、或ハ志願ニ依リ、國家ヨリ徵集セラルルニ依リテ生ズ。

現役兵ニハ左ノ各種ノ別アリ。

(一) 普通現役兵、ノ現役年限ハ陸軍ハ三年海軍ハ四年トス(但シ憲兵上等兵ノ現役期間ハ四年輻重輪卒及補助看護卒ノ現役期間ハ五年トス)。普通現役兵ハ滿二十歳ニ達シ、身體檢查ニ合格シタル者ヨリ抽籤ヲ以テ其ノ所要ノ兵員ニ充ツル迄選抜シテ之ニ編入スルヲ原則トス。此原則ニ依ラザルモノニ二種アリ。一ハ抽籤ニ依ラズシテ現役ニ服スルコトヲ志願スル者ナリ、現役志願ハ二十歳未滿ノ者ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得。

(徵兵令一三二條事) 一ハ志願ニ依ルニ非ズシテ抽籤ヲ用キズ徵集スル者ナリ。一

年志願兵トシテ入營ヲ延期セラレ而モ一年志願兵ノ條件ヲ充サザルニ至リタル者、一年現役兵ト爲リ其條件ヲ充サザル者、外國ニ在ル爲徵集ヲ延期セラレ滿三十

七歳ニ至ル迄ニ歸朝シタル者、徵兵忌避ノ行爲アリタル者等之ニ屬ス。

(二) 一年志願兵、或ル程度以上ノ教育アル者ニシテ陸軍豫備役後備役將校同

相當官タルノ希望ヲ有シ且ツ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願

ニ依リ一年間陸軍現役ニ服スルニ依リテ現役義務ヲ終ルコトヲ得(令一三三條、二三三條)

(三) 一年現役兵、師範學校ヲ卒業シ小學校ノ教職ニ就クベキ者又ハ現ニ其教

職ニ在ル者ハ一ヶ年陸軍現役ニ服セシム(令一四條)。

(四) 海軍志願兵、ニ付テハ特ニ海軍志願兵條例ノ定アリ。法律上ノ義務トシテ

徵集スル者ノ外ニ一般ニ之ヲ志願スルコトヲ得シメ、毎年各鎮守府ニ於テ海軍志

願兵徵募官ヲ設ケテ徵募事務ヲ執行セシム。海軍志願兵ノ現役期間ハ六年トス

(海軍下士官兵服役令五條)

現役兵ハ陸軍ニ在リテハ營内ニ居住セシメ、海軍ニ在リテハ艦船部隊内ニ居住

セシムルヲ原則トス。但シ其在營期間ハ現役期間ト同ジカラズ、現役期間未ダ終ラザル者ト雖モ、勤務ヲ習得シタルトキハ陸軍ニ在リテハ服役概ネ二年ノ終ニ於テ歸休退營セシムルヲ原則トス(陸軍人服令五〇條)。其他特ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命ズルコトヲ得(令一五條)。歸休兵ハ平時ニ在リテハ勤務演習ノ爲之ヲ召集シ、且ツ毎年一回簡閱點呼ヲ爲ス。

四 豫備兵役、後備兵役、補充兵役及國民兵役

豫備役ハ現役ヲ終ヘタル者之ニ服スルヲ原則トス。其年限ハ陸軍ニ在リテハ現役期間ヲ通算シテ七年四月、海軍ニ在リテハ同ジク七年ナリ。但シ一年現役兵ハ豫備役ニ服セズ、直ニ第一國民兵役ニ服ス(令三條、一四條、一年)。海軍志願兵ノ豫備役期間ハ現役期間ヲ通算シテ十二年トス(海軍令五條)。豫備兵ハ戰時事變ニ際シ召集セラルコトアルノ外毎年一回六十日以内勤務演習ノ爲ニ召集ニ應ジ及ビ簡閱點呼ヲ受クルノ義務アリ。

後備兵役ハ常備兵役(現役及豫備役)ヲ終ヘタル者之ニ服ス。陸軍ハ十年、海軍ハ五年トス(令四條)。海軍志願兵ハ後備役ニ服セズ、豫備役ヲ終ヘタル後直ニ第一國民兵役ニ

服ス(海軍令一七條)。後備兵ノ義務モ亦豫備兵ニ準ズ。

補充兵役ハ徵兵検査ニ合格シタル者ヨリ毎年所要ノ人員ヲシテ之ニ服セシムルモノニシテ、其年限ハ陸軍ニ在リテハ十二年四月、海軍ニ在リテハ一年ナリ。現役兵ニ死亡、疾病、犯罪其他ノ事由ノ爲缺員ヲ生ジタル場合ニ於テハ其年ノ補充兵ヲ以テ之ヲ補充ス。其他補充兵ハ戰時事變ニ際シ召集セラレ、勤務演習、簡閱點呼ヲ受クル義務アルコトハ豫備兵後備兵ニ同ジク、又百五十日以内教育ノ爲召集ヲ受クルノ義務アリ(令一七條)。

國民兵役ハ分チテ第一國民兵役、第二國民兵役トス。第一國民兵役ハ後備兵役ヲ終ヘタル者、一年現役兵ニシテ現役ヲ終ヘタル者及ビ召集セラレタル陸軍補充兵ニシテ其役ヲ終ヘタル者之ニ服シ、第二國民兵役ハ兵役義務者ニシテ、常備兵役後備兵役、補充兵役及第一國民兵役ニ在ラザル者之ニ服ス。國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス(令一八條)。國民兵役ニ在ル者ハ主トシテ國民軍ノ要員ニ充ツ。國民兵役ニ在ラザル者ト雖モ元軍人タリシ者ハ志願ニ依リ國民軍ニ編入セラルルコトアリ。

第三節 軍事負擔

一 軍事負擔ノ性質及種類

軍事負擔トハ軍備ノ目的ノ爲ニ國家ガ人民ニ負ハシムル所ノ經濟上ノ負擔ヲ謂フ。廣義ニ於テハ軍事負擔ハ兵役義務ヲモ包含スルノ意ニ用キルコトヲ得ベシト雖モ、兵役義務ハ單純ナル經濟上ノ負擔ニ非ズシテ一身ヲ捧ゲテ忠實ニ軍務ニ服スベキ義務ヲ包含シ、單ニ經濟的性質ヲ有スル負擔トハ全ク性質ヲ異ニスルヲ以テ、普通ニ軍事負擔ト謂フトキハ兵役義務ヲ除外シ、專ラ經濟的負擔ヲ指スノ意ニ用キルヲ例トス。軍事負擔ニ在リテモ時トシテハ勞役ニ服スル義務(同、人夫ノ徵發)ヲ課セラルルコトアリト雖モ此場合ニ於テモ其勞務ハ兵役義務ノ如ク特別ノ忠實義務ヲ包含スルコトナク、單ニ經濟的意義ニ於テノ勞務ニ服スル義務タルニ止マリ、其内容ニ於テハ民法上ノ債務ニ類ス。兵役義務ハ一般臣民ニ對シテ均等ニ課セラルル所ノ負擔ナルニ反シテ、軍事負擔ハ常ニ特別負擔ニシテ特殊ノ地位ニ

在ル者ニ對シテノミ課セラレ、而シテ國ノ統治權ニ服スル者ニ對シテハ内地人タルト外國人タルトヲ問ハズ之ヲ課スルコトヲ得。

軍事負擔ハ國家ノ事業ノ爲ニ課スル所ノ負擔ナルヲ以テ、一般ノ公用負擔(前出五頁)ト其性質ヲ同ジウス。其内容ヨリ言ヘバ、或ハ人的ノ勞役又ハ物品負擔ナルモノアリ、勞役負擔ハ例ヘバ人夫ノ徵發ノ如ク、物品負擔ハ例ヘバ食料品、馬匹ノ徵發ノ如シ。或ハ公用制限又ハ公用徵收ニ相當スルモノアリ、公用制限ハ例ヘバ要塞地帯ノ制限、舍營ノ徵發ノ如ク、公用徵收ハ例ヘバ車輛、船舶ノ徵發ノ如シ。

軍事負擔ハ或ハ直接ニ法律ニ依リテ發生シ、何等ノ行政行爲ヲ要セザルモノアリ、或ハ法律ニ基キ特別ノ行政行爲ニ依リテ發生スルモノアリ。何レノ場合ニモ軍事負擔ハ唯法律ニ依リテノミ之ヲ定ムルコトヲ得ベク、命令ヲ以テ定ムルヲ得ベキ所ニ非ザルコトハ一般公用負擔ニ於ケルト同ジ。

軍事負擔ハ法律ノ定ムル所ニ依ルヲ以テ、其種類ハ法律ノ規定ニ依リ之ヲ列舉スルコトヲ得ベシ。現行法ニ依リ其重ナルモノヲ舉グレバ(一)徵發(二)軍需工業動員(三)要塞地帯ノ制限(四)軍港、要港ノ制限是ナリ。

二 徵發

徵發トハ軍隊ヲ活動セシムルニ當リ、普通ノ手段ヲ以テ其需要ヲ充スコト能ハザル場合ニ於テ、其必要ヲ充シ得ベキ地位ニ在ル者ニ對シ必要ナル經濟的負擔ヲ課スル行爲ヲ謂フ。徵發ハ戰時又ハ事變ニ際シ軍隊ヲ動カスニ當リ必要ナル軍需ヲ地方人民ニ課スルモノナルヲ正則トス。但シ平時ニ於テモ演習及行軍ニ當リ已ヲ得ザル必要アルトキハ之ヲ行フコトヲ得。

徵發ニ關スル現行ノ法規ハ徵發令(一五布)及徵發事務條例(一五布)ヲ重ナルモノトス。其大要左ノ如シ。

(一) 徵發ノ目的物(イ)物品負擔、殊ニ馬糧、食料品、薪炭、飲水、石炭等ノ供給、(ロ)勞役負擔、殊ニ人夫(戰時ニ在リテハ職工、礦夫、洗濯)、(ハ)使用負擔、殊ニ馬、車輛、宿舍、厩圍、倉庫、船舶、汽車、演習ニ要スル土地、演習ニ要スル材料器具等(ニ)所有權ノ收用、殊ニ馬、車輛、船舶ノ各種ニ分ツコトヲ得。

(二) 徵發ヲ爲スノ手續ハ徵發權ヲ有スル機關ヨリ徵發區ニ對シ徵發書ヲ發スルニ依リテ之ヲ行フ。徵發書ヲ發スルノ權ハ陸軍大臣、海軍大臣、師團長、鎮守府司

令官、其他總テ陸海軍ノ獨立部隊長ニ屬ス。徵發區ハ徵發ノ目的物ノ種類ニ依リ府縣、郡、市町村又ハ船舶會社、鐵道會社トス。徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府縣知事、郡長、市町村長又ハ驛長、船舶會社店長ニ交付ス。知事、郡長、市町村長ハ各其要求ニ應ジテ其區域内ノ人民ニ對シ其課セラレタル負擔ヲ分賦シ、各其區域内ニ於テ供給ヲ全ウスル職責ヲ有ス。但シ徵發區ガ自ラ其負擔ノ主體タルニ非ズ、其負擔ヲ課セラルル者ハ徵發ノ目的物ノ所有者又ハ勞役物品ノ供給者ニシテ、知事、郡長、市町村長ハ唯國家ノ機關トシテ其負擔ヲ分賦シ且之ヲ供給セシムル職務上ノ責任アルニ止マル。會社ガ徵發區タル場合ニ於テハ之ニ反シテ其會社ガ自ラ負擔者ナルコト勿論ナリ。臨戰又ハ合圍地ニ於テ時機切迫シタルトキハ徵發書ヲ發スル權アル者ハ徵發書ヲ發セズ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトヲ得。

徵發ノ目的物ニ對シテハ完全ナル損失補償ヲ給スルコトヲ要ス。補償ハ各徵發區毎ニ一括シテ之ヲ交付シ之ヲ負擔者タル人民ニ分配セシム。補償金額ハ法律ノ定ムル標準ニ依リ府縣知事、郡長、市町村長ヨリ之ヲ請求スルモノトス。評價ノ標準明ナラザルモノ又ハ負擔者トノ協議調ハザルモノハ評價委員ヲシテ之ヲ

評定セシム。其價格ニ付訴訟ヲ以テ之ヲ争フベキ途ナシ。

三 軍需工業動員

軍需工業動員法(大正七法)ハ戰時ニ際シ軍需品(兵器、艦艇、航空機、彈藥、軍用器具、設備、燃料、被服、糧秣、衛生材料、獸醫材料、通信用物品、以テ)ノ生産、修理又ハ輸送ノ爲ニ民間ノ工業ヲ軍隊ノ目的ニ強制利用シ得ベキ方法ヲ定ム。同法ニ依リ戰時ニ於テ政府ノ取り得ベキ手段トシテ認メラルモノハ左ノ如シ。

(一) 工場及事業場ノ強制管理、使用又ハ收用 強制管理トハ事業ノ經營ハ從來ノ如ク之ヲ繼續セシメ、唯其管理權ヲ政府ノ手ニ移スヲ謂ヒ、使用トハ從來ノ用途ヲ變ジテ之ヲ軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲ニ使用スルヲ謂ヒ、收用トハ所有權ヲ政府ニ歸屬セシムルヲ謂フ。政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲ニ必要ナルトキハ、其種ノ事業ヲ營ミ又ハ其原料若クハ燃料ヲ生産シ、又ハ之ニ必要ナル電力若クハ動力ヲ發生スル工場及事業場、又ハ此等ノ工場ニ轉用スルコトヲ得ベキ工場ヲ管理シ使用シ、又ハ收用スルコトヲ得。

(二) 土地並家屋、倉庫其他ノ工作物及其附屬設備ノ強制管理、使用又ハ收用 戰

時ニ於テ軍需品ノ生産、修理又ハ貯藏ノ爲ニ必要アルトキハ政府ハ此等ノ手段ヲ取ルコトヲ得。普通ノ土地收用ノ場合ノ如ク單ニ土地ノミヲ收用スルニ非ズシテ土地ト共ニ倉庫其他ノ設備ヲ管理、使用又ハ收用スルモノナリ。

(三) 船舶、鐵道等ノ強制管理 戰時ニ際シ必要アルトキハ此等ノ輸送設備ニ付政府ハ之ヲ自己ノ管理ノ下ニ歸屬セシムルコトヲ得。

(四) 従業員ノ徵用 以上(一)乃至(三)ノ場合ニ於テ政府ハ其従業者ヲ併セテ供用セシムルコトヲ得。

(五) 軍需品ノ處分ノ制限 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ讓渡、使用、消費、所持、移動若クハ輸出入ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得。

(六) 勞役ノ徵用 政府ハ軍事輸送機關、國ノ經營ニ係ル軍需品工場又ハ政府ガ強制管理ヲ爲シタル工場若クハ事業場ノ業務ニ從事セシムル爲ニ兵役ニ在ル者ヲ徵兵令ニ拘ラズ召集シ、又ハ兵役ニ在ラザル者ヲ徵用スルコトヲ得。

以上戰時ニ於ケル工業動員ノ目的ヲ達スル爲ニ平時ニ於テモ關係商工業者ニ報告ノ義務ヲ負ハシム。

四 要塞地帯

要塞地帯トハ國防ノ爲建設シタル防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ謂フ。其區域ハ陸地ト海面トヲ含ミ、距離ノ遠近ニ應ジテ之ヲ三區ニ分チ、陸軍大臣之ヲ定メテ且ツ之ヲ告示ス。要塞地帯内ニ於ケル制限ハ要塞地帯法^(三〇五法律)ノ定ムル所ニシテ、其制限ハ(一)地帯區域内ニ於ケル土地所有權制限(二)一般人民ニ對スル禁止ノ二種ト爲スコトヲ得。

(一) 要塞地帯ニ於ケル土地所有權制限ハ區ニ依リテ同ジカラズ。何レモ或ル種ノ築造物ノ新設、改築、増築又ハ變更ヲ禁止シ又ハ制限スルモノニシテ、或ハ絶對ニ之ヲ禁止スルモノアリ、或ハ要塞司令官又ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受ケズシテ之ヲ爲スコトヲ禁止スルモノアリ。其禁止ニ違背シテ新設、改築、増築又ハ變更ヲ爲シタル築造物ハ之ヲ除去又ハ復舊セシムルコトヲ得。

(二) 要塞地帯ニ於ケル一般人民ニ對スル制限ハ二種アリ(イ)水陸ノ測量、撮影模寫、錄取及ビ航空ハ要塞地帯内及第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ何人モ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ。(ロ)第一

區ニ屬スル水面ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ漁獵、採藻、及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ズ。

五 軍港、要港

軍港及要港ハ普通ノ港灣ガ警察官廳ノ管理ニ屬スルニ反シテ專ラ海軍ノ管理ニ屬シ、軍港ハ鎮守府司令長官、要港ハ要港部司令官之ヲ管ス。其境域ニ屬スル陸地及水面ニ於テハ軍事ノ目的ヲ妨グルノ虞アル各種ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限ス、殊ニ艦船ノ出入碇泊、火器又ハ爆發物ノ發射發火、海岸ニ於ケル物件ノ委棄、山林原野ノ焚火、各種ノ築造物、境域上ノ航空、測量、撮影等ハ或ハ禁止セラレ或ハ制限セラ^{(二)三法律}ル^{(三)三法律}。旅順港モ亦要港ニ準ジ、旅順港規則^{(四)三勅令}ニ^{(一)海令}ノ制限アリ。

行政法撮要終

大正十三年二月二十一日印刷
大正十三年二月二十五日發行

行政法撮要各論下奧附
定價金壹圓六拾錢



著者 美濃部達吉

發行者 江草重忠

印刷者 松澤珏三

發行所

東京市神田區一ツ橋通町五番地
電話九段三三二番地
東京市本郷區森川町一番地

有終閣

印刷所 東京市東區町六下七十番地(電話九段三六九)勞舍

512
212

終